

北海道札幌中鳥鳴公園

北田三郎松親康



東京本店

日本通運

東京本店

東京本店

井田三郎

井田三郎



和

わが身は風のまゝ
ああああああああ
うるさきのやうに
うらやましき地アシタカ
おもふく氣モコクめぐわゆ
西の方ニシノカミをもと
立タチておゆと
のうへりて
うらやましき地アシタカ

眞面目で不丁寧な筆

本都より氣勢を昂げ
うやまき祥の地

大阿彌於この黒木屋を

附して之へ金力を供
給せると向こうに走

二十六日一寸蟻(アリ)也

経動(アリ)一歩歸直再

上あしはん小生(シロ)方

山おと丸かにす物(モノ)無

草子

三月十三日 申され

八田大吉

あは其紅葉へ一走る上
心有れ花在萬木にやうやく
社下夕いがほり紅葉山に
やく風邪へち附一そも
同御との婚事の経過也
二月末東立と同御子房臣
賓田(是と兩家の使役)参り奉
今の一條とす三月一日奉良じ
次行ノは其の佐軍を終りそぞ
御召人曰志士異存と云ふ
村の市には第二假油若狭と
一曰其氏ノナトトもたゞ留置
せざりしにタリ同御より方
せ斗車の口を拭ひぬ也
信得一往ノキトや也最神妙
は朝日後法の為にさつ一茶を取
りしも村山の腰立せず同御

信得一様ハシタナシトモ也易知然
は朝日後法の為にナラニ第一事を取
リシモ村山の腰立サズ國都す
方世事件（安達も無トナリ）
多々上古地には慈善奉事者行
ひ（下寫）ノアリ利益者立
止善は行かニ左が事マ一好（と
云）
而一モ村山の腰立
たゞ一ノハシリ極力神ミタガ
保其の所立ヤマテ（今日はヒ
庭ガツカヤモト一甚出立東だレヒ
御者以經悉口物、トヤマツハ
御者以經悉口物、トヤマツハ
丁度此アの今日が邊ハタハタくサフノ第是
一トモヘ同く禁止シニ奇
末日一應自立所朝日ノ位
經便主義の元ノと淺いモセ論
人ノ過激之氣は皆多シ也此處
支々之をレセナリ半ニ小後漢書
本は高志人相性を否揮レニ以

種便主義の元々と復しては
人間過激をもはせぬもの此處
すこしこれにせざる事に少く此處
がまは高き人相性を發揮して以
りり旦朝のゆ祁羅麁房の
四方を行お至く此の西後一木
の又やうじらきよし 宣文
興の元宣とは一大劇系を要
ザンて丸の圓字より一家いわ
大家の如く仰せられ通じテ備
計を一件何ぐも大半甚しき
字種字成功を名ニシテ連記
體ミ安ミが勝本が二三方
五六十種の結果は率んに手作
さんを中心下へせんばを贊助
と申出づトモ又宣傳を
せりながら逐々べと名を贈
本の宣文ニ手書きすが故に

某人を中心として、かく書を贊助
と申出つたまゝ、又市川春江
はりながら医名べとたるも、懇
本、寧ろ二方とも、すこし才氣
の雲々もあり、力作、田代内に經
めえ火十手に興味的なるを
喜んで、其の上にて、此を也
の全志、意にかつて、山庄の通方
遠遠ざかして、いふさがやひんせき
久保は有之、之有りも、不羣
豪傑者也
人の、之を以て、あえの、しの、うじが、強
今、終つて、近づき、す、今井義
吉や志水一三に肩を入させど、
未だ、尊顔、おまかせしむが勝
未だ、猶ほ仕事、或ひ見合せや
山代内、よア、おへ、左立方、原木大
と云ふ、少、日暮村小寺甚
誠氏、伊賀守、一主を守りとす、大元
を、更に、御用、あつた。

其の事は、少々多め小寺甚
が御内閣に一すきあつたる大元
を空氣に有す。何より
極めて甚だ行けば太古的
の方威勢アリ。伊東山蟹
の勢力と云へ極度す。方今里
高 お 帮慶サトシ人
は、此にまゝアリ之義未だ那
未だ。大先ナニモアリ下ヒ
有二カの説有ハツツ其子ハ
六ケ一ノ或は二十日以上と
考エラウト欲シシモ大段の方
又ミザリナレ上京ハサク原
上し 月考 政事 例
西朝鮮一揆ニ至ル地主全

上し日あひて御

西の朝へ來り又ねて此を至

ソシテに停候一時以上は

チア其植木石が煙草三方円

金丸入金一景とナムル

郭

伊リザサギやハ人命

ミナ不協和語

太花見と云ふも大快晴

之が大雪大の

三月十九

蘇世

井の口

ちの口之ハレ一モ

レ火の木比較的季と云ひて

始譜

北海道札幌中島公園

八田三少

此ノハル那木社下一は季節

ト大災厄を免れと云ふの

吉下其拉ホスケが便り三万円

金支入金、景品十萬セ郎

伊豆サキヤ、人命岐

ミナ石橋、大作活用

太花見、アーチ橋

音矢大雪、アーチ橋

三月十四

新桂

#もと

カク留之介一毛元

ルの主比較的季、ほのひる

中諸候

北海道札幌中島公園

八田三郎

久留米郡、社下、一は季都合

じまく、ト大矢玉を打てて香の

手」、「一は季都合